

# 元気塾リハビリテーション専門職による訪問同行支援

(介護予防ケアマネジメント支援)

## 1 事業概要

本事業は、地域包括支援センター職員が支援を要する高齢者宅へ訪問をする際に、元気塾のリハビリテーション専門職が同行し、高齢者の身体機能や住環境の評価を行うことで、より個別性に合った自立支援を行うことである。

## 2 利用の実績

令和3年4月～令和4年2月末
34件

## 3 利用の集計等

【表1】年齢構成 (件)	【表2】世帯状況 (件)	【表3】相談依頼時の介護保険認定状況 (件)																											
<table border="1"> <tr><td>前期高齢者 (65～74歳)</td><td>4</td></tr> <tr><td>後期 " (75～89歳)</td><td>23</td></tr> <tr><td>後期 " (90歳～)</td><td>7</td></tr> <tr><td>合計</td><td>34</td></tr> </table>	前期高齢者 (65～74歳)	4	後期 " (75～89歳)	23	後期 " (90歳～)	7	合計	34	<table border="1"> <tr><td>独居</td><td>14</td></tr> <tr><td>夫婦のみ</td><td>12</td></tr> <tr><td>子と同居</td><td>8</td></tr> <tr><td>合計</td><td>34</td></tr> </table>	独居	14	夫婦のみ	12	子と同居	8	合計	34	<table border="1"> <tr><td>申請・更新中</td><td>6</td></tr> <tr><td>事業対象者</td><td>10</td></tr> <tr><td>要支援1</td><td>10</td></tr> <tr><td>要支援2</td><td>8</td></tr> <tr><td>合計</td><td>34</td></tr> </table>	申請・更新中	6	事業対象者	10	要支援1	10	要支援2	8	合計	34	※利用者の主な疾患 ・整形外科疾患 27件 ・その他 (心疾患・ 脳梗塞・糖尿病等)
前期高齢者 (65～74歳)	4																												
後期 " (75～89歳)	23																												
後期 " (90歳～)	7																												
合計	34																												
独居	14																												
夫婦のみ	12																												
子と同居	8																												
合計	34																												
申請・更新中	6																												
事業対象者	10																												
要支援1	10																												
要支援2	8																												
合計	34																												

【表4】地域包括支援センターからの相談依頼内容 (複数回答) (件)

福祉用具アドバイス	11
住環境アドバイス	10
導入するサービスの相談	21
身体・生活機能評価 (予後予測)	28
病気の理解促進補助	0
その他	3
合計	73

【表5】リハ職訪問時の実際の支援内容 (複数回答) (件)

福祉用具アドバイス	15
住環境アドバイス	12
導入するサービスの相談	29
身体・生活機能評価 (予後予測)	28
病気の理解促進補助	5
その他	3
合計	90

【表6】具体的な提案内容 (複数回答) (件)

☆元気塾 (通所C)	11
☆訪問リハビリ	10
☆デイサービス	4
☆歩行補助具	13
☆入浴補助具	5
☆住宅改修	2
屋外移動方法	8
生活動作	7
補装具の利用	4
自主トレの方法	10
その他 (栄養指導・通いの場参加勸奨等)	12

【表7】☆印の実際の利用状況 (複数回答) (件)

元気塾 (通所C)	7
訪問リハビリ	5
デイサービス	3
歩行補助具	8
入浴補助具	3
住宅改修	2
合計	28

※利用に至らなかった主な理由

- ・提案後に利用者の考えが変わり、他のサービス利用に至った
- ・身体状況が変わり利用を見送ることとなった

## 4 利用者の状況

利用者の約8割が整形外科疾患を持っている方であった。表4・表5を比較し、後者の合計件数が多いことから、リハ職の訪問によって新たな気づきを得られていることが示唆された。また、依頼内容・支援内容のいずれにおいても、“身体・生活機能の評価”に一番需要があり目的に沿った事業活用がされていることが考えられる。

実際に利用に結び付いた28件(表7)も踏まえると、より個別性に合った自立支援に向け、リハ職が大きな役割を果たしているといえる。